

特251

736

昭和十四年六月

北支産業視察記

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5⁶ 0 1 2 3 4 5

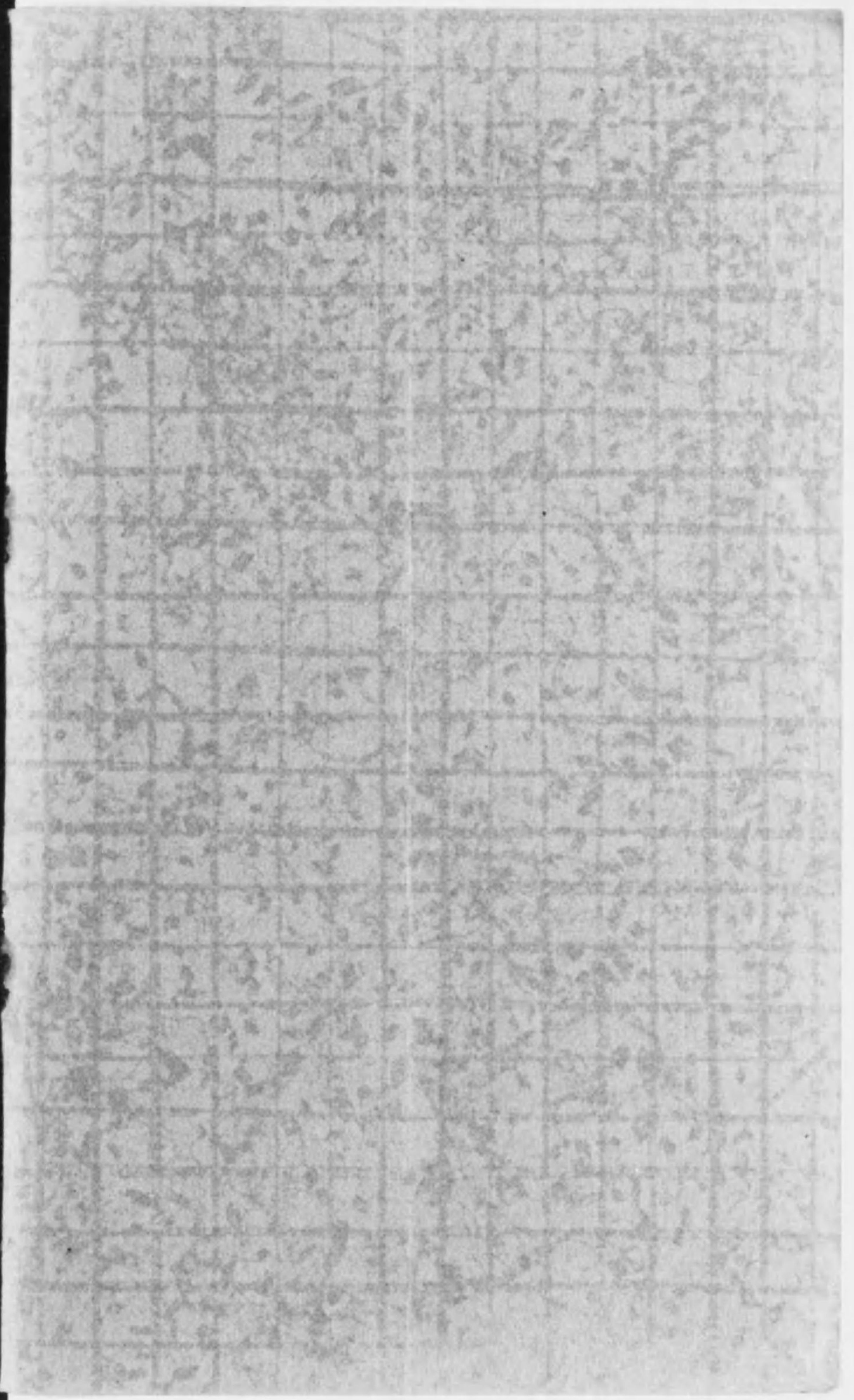
始



特251
936



北
支
産
業
視
察
記



北支産業視察行程

神戶發五月十五日午前十一時——(ばいかる丸)——青島着五月十八日午前八時	二泊
青島發五月二十日午前八時三十分——(膠濟線)——濟南着五月二十日午後八時三十分	二泊
濟南發五月廿二日午前九時三十分——(津浦線)——北京着五月廿三日午前零時十五分	三泊
北京發五月廿五日午後一時四十分——(京奉線)——天津着五月廿五日午後四時十分	二泊
天津發五月廿七日午後四時三十分——(京奉線)——奉天着五月廿八日午前七時五分	一泊
奉天發五月廿九日午後十一時四十分——(滿鐵線)——新京着五月三十日午前七時二十七分	
新京發五月三十日午後一時四十分——(滿鐵線)——大連着五月三十日午後十時	三泊
大連發六月二日午前十一時——(吉林丸)——神戶着六月五日午前七時三十分	

北支産業視察記

五月十五日午前十一時、神戶出帆ばいかる丸にて北支産業視察の途に就く。一行四名――

- 團長 議員 三 隅 福 次 郎
 同 吉 河 圓 之 助
 同 大 崎 利 一 郎
 主事 松 生 幸 雄

打振る手にしばしの別離を惜みつゝ埠頭を離る。長く尾を引いて流れる六甲連山の白雲も我等の船出を見送るが如し。船中は各等殆ど満員で、大陸向の便船は毎航そうであるとのこと、隊をなして大陸へ押し渡る娘子軍も數多ありて、仲々賑かだ。

青 島

海上至極く無事平穩に、十八日朝、目指す青島に上陸第一步を印した。海上から見る青島の眺望は實に素晴しい。なだらかな緑の丘、赤い屋根、教會の尖塔――一幅の畫にもして見たいエキゾチックな風景だ。船は第二



青島海軍棧橋及小島公園

碼頭へ横着けになる。同地會議所關係の出迎を受けて、宿舍グラウンド、ホテルに到着く。時間の都合にて、公式訪問を翌日に廻し、早速市内見學及視察に出掛けた。幸にこの地に縁故深き團員吉河氏の配慮により、食肉共同輸出組合井町理事長に東道役と乗用車の提供を受け、萬事都合に一巡し得たのは望外の俸せであつた。先ホテルの前通り、太平路を海沿ひに海水浴場を見、競馬場を通つて、太平公園に赴く。恰も好し、アカシヤの花盛りにて、沿道の風趣又一入であつた。廣々とした舗裝路に海濱の佳景を滿喫しつゝ夏期の別莊地湛山に出、巍峨たる浮山を右に見て、工場地帯四方に向ふ。途々我軍隊の演習する有様を目撃して、今更ながら一種の心強

さを覺ゆ。

四方大康紗廠（大日本紡）は、過ぐる居留民引揚げ直後、沈鴻烈麾下の暴戾なる支那兵の手によつて、殆ど完全に爆破された工場の一である。若き技術家住山氏の懇切なる案内によつて、場内を一巡する。可憐な支那の小娘たちが紡績機の前で何の不安もなげに立働いてゐた。大體六割程度の復興を見たとのことであるが、案内された一棟の工場の残骸はいまだに慘澹たる暴逆の跡をまざ／＼と思ふに足るものであつた。資材統制の關係から急

速なる復興は困難であり、又原料の手當も充分とは云へない。北支棉の出廻りも種々の事情で意の如くならず、（これは各方面で聞いた話であるが、奥地に於ける治安工作従つて通貨工作が行届かぬ關係から、土産物の出荷が充分でない）印度棉を混入して操業しつゝあるとの説明であつた。

次に大日本麥酒株式會社工場を視察。櫻庭氏のユーモアに豊んだ説明を聞いて、醸造行程を一巡する。去年の十萬箱に比して、本年は二十萬箱醸造の豫定だとのこと。奥地に流入した瓶の回収に困難すると云ふ話。それから工場の裏手に麥畑を試作して、山東農民に原料としての麥の植付を大いに指導する計畫を耳にしたが、寔に結構な事である。醸造し立てのビールの味は又格別である。

最後に青島宰畜股份有限公司を視察して歸宿。

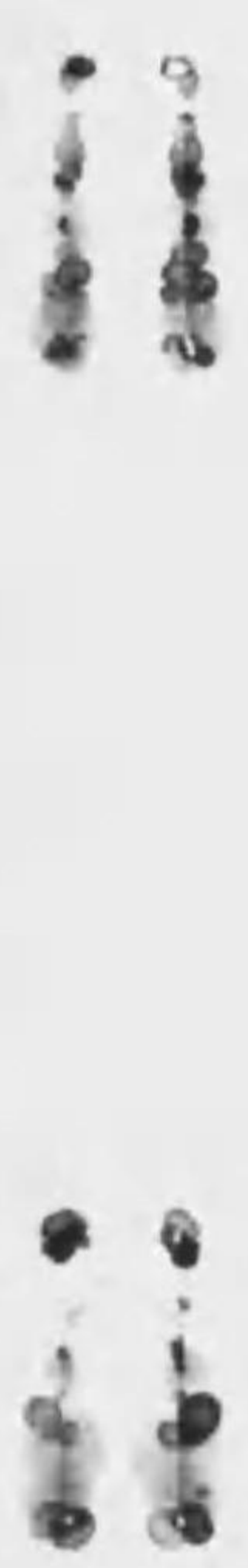
夜——グラウンド、ホテルに於ける青島日本商工會議所主催の晚餐會並に懇談會に臨む。會する者二十數名、田邊會頭御不例につき、吉澤副會頭の司會にて懇談。先、津下民團會長より青島の沿革並に現況の説明あり。次いで、朝鮮銀行支配人井口氏、正金銀行支配人三島氏より北支通貨の現状に就て詳細説明あり。其の要旨は昨年三月十日開業した中國聯合準備銀行が新紙幣を發行して、愈々北支通貨工作に積極的に乗り出した事は衆知の通りであるが、其後種々の障礙に直面しつゝある。法幣の流通期間は南方券が三ヶ月、北方券が一ヶ年、その北方券ですら今年三月十日以降は流通を禁止され、理論的には既にこの北支からは法幣の姿は消えて無くなつてゐな

ればならぬ筈であるが、さうは行かぬ。治安の確保されてゐない奥地では今以て法幣が唯一の通貨であるのみならず、天津英佛租界では大手を振つて濶歩してゐる。ノミナル乍ら一志二片ペーシスの日本圓にリンクしてゐる聯銀券の價值が八片臺の法幣より安い。こちらから打歩を持つて行かなければならぬといふ不合理極る状態である。爲めに外商筋に貿易を獨占されることゝなり（尤も三月十一日以降十二品目を指定して爲替集中を實施してゐるが、）北支の物價がぐんぐん昂騰の一途を辿りつゝある。これが目下の大問題である。

最後に吉澤氏の内地に於ける物價問題に對する質問に三隅團長の應答、所見の開陳ありて、有意義に會を終る。

翌十九日は公式訪問——青島日本商工會議所、居留民團、總領事館、海軍武官府、特務機關、興亞院出張所、市公署、青島神社參拜。歸途、加藤總領事のすゝめにより山東産業館を訪ひ、淺田館長より北支特に山東省の資源分布の狀態に關し詳細説明を聞く。夜は青島食肉共同輸出組合の招待を受く。

二十日午前八時三〇分、青島車站出發。天地開豁——漸く大陸に入るの思ひあり。一驛毎に暑氣加はり、膠縣を過ぎ坊子に至れば、既に炎威。各驛に守備隊があつて、炎天の下鐵兜に鉄劍を把つて重い任務に就く帝國軍人の確乎たる勇姿を見かける。異郷を旅してこの有様を目のあたり見る時、所謂東亞新秩序建設の輝しい將來性に對し新たな確信と覺悟を喚び起すと共に、一日も早くその黎明の到達せんことを心から祈らぬ者は無いであらう。坊子驛のプラットフォームに下り立つて、一人の憲兵に坊子炭坑の復興状態を尋ねると、三本の坑道の中一本だ



け漸く復舊したといふことであつた。金嶺鎮は鐵の産地である。有名な炭坑淄川、博山は張店驛から支線が分れてゐる。遙か彼方の山のあたりでもあらうか。淄川と云へばたしか「聊齋志異」の著者蒲柳泉居士の郷里と記憶する。この素淡たる土地の何處からあゝした文學が生れたのであらうか。さう云へば梁山伯も山東だつた。

一體北支は樹木の少い土地だ。沿線には曾て獨逸人が大きくして鐵道の枕木にする爲めに植ゑたアカシヤの樹蔭がその邊の景物に僅かの潤ひを與へてゐる位のものだ。もつと綠化すれば氣候も恐らく變つ來てゐるだらう。

濟 南

午後八時三〇分濟南着。日永の、而も日本時間の八時半は漸く黄昏の見え初めた頃。驛頭で、多治見商工會議所會頭の出迎を受く。數日前敗殘兵の襲撃を受け、戒嚴中にて、十時以後は通行禁止につき、早く宿舎に到着くやうとの注意で、宿へ急ぐ。東亞ホテル。暑い。

翌二十一日公式訪問——商工會議所、領事館、居留民團、尾高部隊司令部、特務機關。

濟南の現況並に將來性に就いて概説するならば、先、邦人進出振りの目



津浦線濟南驛

覺しい點を擧げねばならない。否、これに就ては獨り濟南に限らず青島も北京も天津も等しくその例に漏れるものではないが、今迄比較的奥地に在る地理的關係から我々の眼を餘りひかなかつた濟南に来て、さうした事實を目前に見る時、その旺盛な發展力に驚かされる。事變前二、〇五四名の居住者が昭和十三年の末には既に七、九〇四名、殆んど四倍近くの増加を示してゐる。而も（これは各地ともさうであるが）この數字は領事館登錄濟南のもので、未登錄の分を入れると、恐らく遙かに大きな數字となるだらう。（これは領事館當局の云ふところ）

一體、濟南は非常に恵まれた環境に在る都市と云へる。先、山東山岳地帯を背後に控へ、前面に曠漠たる北支平野が展開する。而してそれらは總て所謂ヒンター・ランドだ。山岳地帯には坊子、淄川、博山の炭坑もあれば鐵その他の礦産資源も豊富だ。肥沃な平地は棉花、落花生、小麥、大豆、煙草等の農産物に溢れてゐる。交通は膠濟、津浦の要衝に當り、更に此處から真西に延びて京漢線に直接接続する鐵道でも完成すれば、更に經濟圏は擴がる。水運も小清河、黄河、或は利用の仕方によつては大運河も考へられやう。勞働力は名聲喧々たる山東苦力の強い、さうして安價な腕が待つてゐる。おまけに水質の良い豊富な水があると云ふのだから、凡そ工業地としての條件を完全に具備してゐると云つていい。（水の點、天津、青島、大連は今の儘では一考の要あり）かうした意味から云へば、濟南は工業地として青島より勝つてゐるものがあるだらう。然し、一面經濟都市濟南が躍進すればする程それだけ又吞吐港青島の重要性も増して來るといふ見方もある。その通り！ 濟南は大陸的氣候

で、自然の風物には餘り恵まれてゐるとは見受けられない。大陸の眞中で孜々として働いて、風光明媚な青島の海濱で休養する——一寸洒落た構想ではないか。夫々の自然的條件をひとつ／＼生かす。これこそ經濟開發の要諦でなければならぬ。これに關聯して（少し餘談に亘るかも知れないが、一言觸れることを許して頂けるならば）旅行中屢々人にも聞き又自分でも考へたのであるが、日滿支經濟ブロックの建設はいゝとして、その關聯性と云ふか、相互依存性と稱するか、とにかく全體的立場から産業上の配合調和を如何にするか——それは儘かに一應問題になる問題だと思ふ。俗な言葉で云へば、廂を貸して主屋をとられることはないかといふ心配だ。然し究局の處自然の力には打勝ち難いものがあるのだから、其の場凌ぎの姑息な手段を弄すれば、何處かに大きな無理が出来て、全體を壊すことゝなる。だから天の恵みは恵みとしてこれを享け而して開發する。小さな人爲の力を以て自然の勢ひを堰き止めるなどといふ、ケチな島國根性は此の際揚棄して、數千年間日本民族の血の中に生きて來た素晴らしい發展力を不退轉に何處までも培ひ、その力を以て歴史を貫く——この信念の方がより根本的ではあるまいか。マルサスの云ふ處によると、衣食住が充分な場合には人口は二十五年にして大體倍加するといふ例證をアメリカ新大陸の開拓に於て示した。して見ると、凡そ一億と稱せられる我が國人口も、廣大な支那大陸に安居樂業の新天地を得れば、マルサスの計算のやうにはならないかも知れないが、半世紀も経てば、相當の數字になることは期して俟つべしだ。何をやるにしても相當な人間の數を有つことは第一要件だ。ひとり人口問題

ばかりではない。日滿支プロック建設の問題は案外内問題かも知れない。

午後支那語の上手な宿の娘さんの案内で市内見物——釣突泉、廣智院、太明湖、破壊された韓復榘の邸趾等。二十二日午前九時半、濟南發。津浦線の中、徐州——濟南間は夜行の關係で屢々匪賊の襲撃を受け、時に一時間半乃至二時間延着すること。我々の場合も一時間半遅る。胸のときめく思ひで黄河を渡つたが、上流決潰の爲め殆んど干上つて、破壊された橋材を運ぶ人夫の群を見下して、追憶を新にしたに過ぎない。禹城、德州、東光、滄州、馬廠、靜海、獨流鎮——これらの驛名は事變頭初彼我激戦の交はされた我々の記憶にもまだ新たな戰場だ。然しもうその名残りを殆んど留めてゐない。唯驛毎に見る墓標の文字にありし日の戦ひの跡を偲びつゝ心からなる目禮を捧げて通る。今年は早魃で妻は不作だ。人影のない畑の中で水車をコト／＼回陣に引いて廻る長閑な牛のゐる風景も支那式だ。この線も相變らず樹木が少い。山もない。盛り上つた大地の稜線が、あの向ふは海だらうかと錯覺を起させる。車中徐州から北京へ行く松野工兵少尉に隴海線方面の戦線の有様や鐵道敷設状況について興味深い話を聞く。

夕刻、天津通過。車窓より、我が荒鷲の巧妙な爆撃を受けた廢屋を見る。

北 京

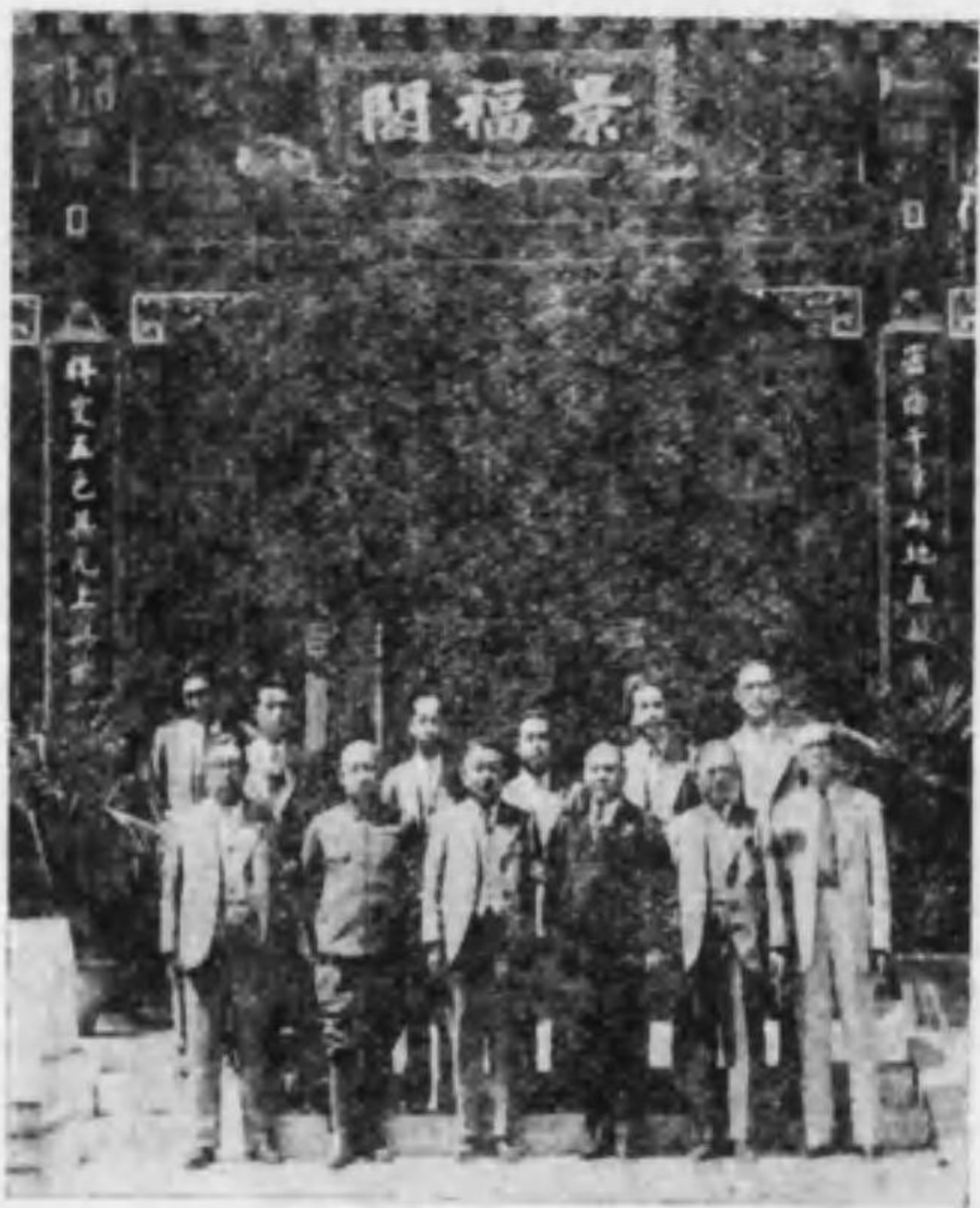
北京着午前零時十五分。深夜とは云へ正陽門驛に下り立つと、雄大な古都の風韻が流石に身に迫るを覺ゆ。

北京ホテルへ。佛蘭西人經營の堂々たるホテルだ。

二十三日、早朝窓を展く——眼下は一面の市街だ。葉々たる樹木に朝日が耀いてゐる。多く槐の木だ。見ると一際目立つて大きな黄色の屋根が幾棟も列んでゐるではないか。紫禁城だ。太陽を受けて金色燦然とも見える。些かの反りもない、どつしりした、何ものをも威壓せずには措かない、太いさうして素朴な屋根の線。壯觀！

公式訪問——商工會議所、臨時政府實業部、杉山部隊司令部、興亞院華北連絡部、特務機關、市公署。大使館書記官矢口氏より奉天滞在中の菊地副會頭發病の由を聞き、見舞電報をうつ。尙同行の榎並會頭も出發見合せとのこと、神戸福本理事より來電あり。北京にて落合ふことも自然不可能となれり。

夜——商工會議所に於ける臨時政府實業部、日本商工會議所、北京市商會共同主催の歡迎會に出席す。陸夢熊實業部次長、鄭泉森會長、越智副會頭其他會する者二十數名。北京料理に舌鼓みを打ち、姑娘の唄を聞き、大いに歡を盡し、懇談に時の移るを忘れて歸宿。

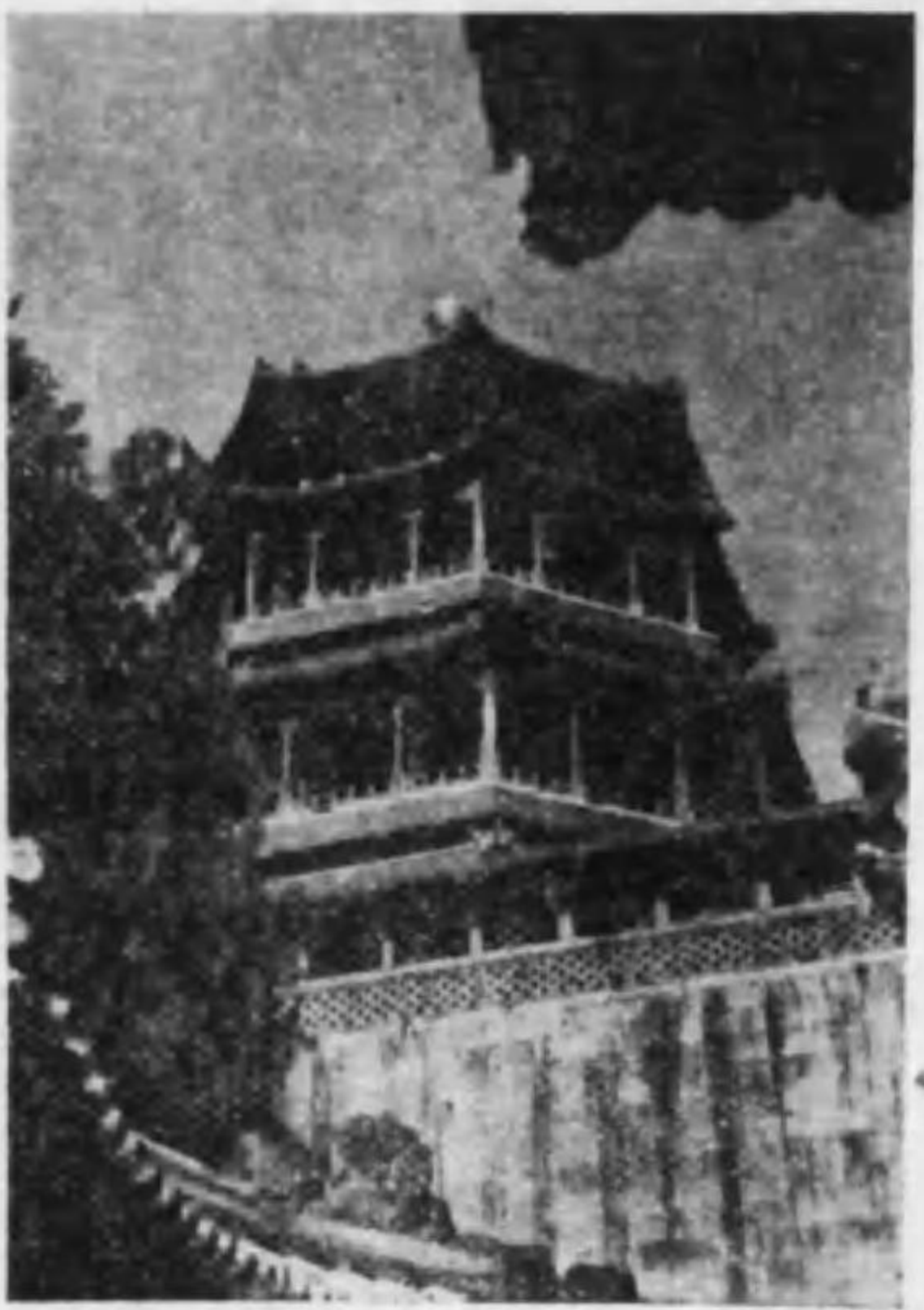


萬壽山に於ける北京市長の招待

二十四日、紫禁城見學。結構壯麗、規模雄大、我亦何をか云はん乎。

正午——北京市長余晉蘇氏の招待にて頤和園に車を驅る。北京西北郊四里。萬壽山と昆明湖を頤和園と統稱す。同園は西太后離宮の跡にて、光緒十四年海軍擴張費を轉用して舊趾を擴張修復した話は餘りにも有名である。景福閣にて懇篤なる款待を忝ふす。特に吉田北京特務機關長の列席を得たるは幸甚なりき。

「この魚を知つてゐますか」と、余市長が流暢な日本語で云はれる。見ると、目の下一尺もあらうかと思はれる珍しい魚が大きな平鉢に一杯に盛つてある。鯛といふ魚ださうだ。面白い魚で、五、六月の頃群をなして海を出て長江を溯る。さうしてその集團を作る際に整然たる序列がある。先頭に一匹大將が行くと、次にその分れた尻尾を啣えるやうに二匹つゞく、今度はその二匹が四匹になるといふ風にして、扇形の隊伍を整へる。而してその最先頭の一匹を捕へて、之を皇帝に獻上する慣習であつた。それほどの珍味である。今日と異つて昔北京まで運ぶには相當な苦心が拂はれたさうである。針のやうに細い小骨が多い。然し



萬壽山佛香閣

淡泊な品のいゝ風味に何處か大陸的な味があつて、有難く頂戴出來た。

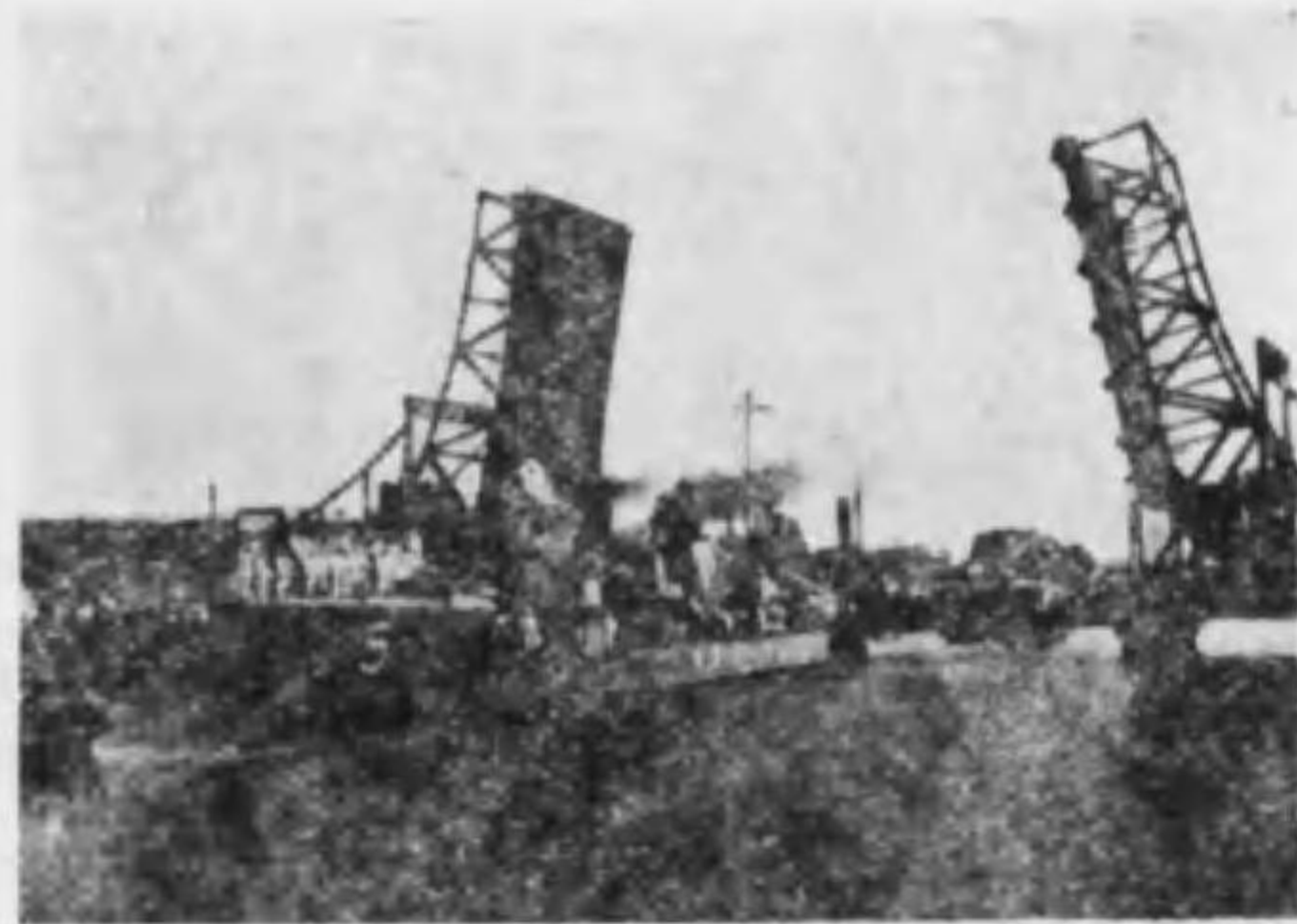
宴果て、昆明湖に舟を泛べ、名園を心ゆくまで眺望し、排雲殿に西太后遺愛の珍寶名什を清賞し、佛香閣に古都の遠景を恣にして、名残りを惜しみつゝ辭去。

夕刻——北支開發會社の久米川俊氏來訪。ホテルにて食事を共にし、同君の案内で正陽門に洋車ヤンチヤを驅る。二十五日天壇見物。松野少尉に再會せしは奇遇なりき。午後一時四十分北京發天津へ。同四時十分天津着。

天津

萬國橋を渡る。カーキ色の半ズボンにフランス軍隊風の鍔廣の帽子をかぶつた支那人の巡警に整理されながら車と人の波が雜然と鐵のアーチの中に吸ひ込まれ、又吐き出されて行く。トラツクが通る。洋車が走る。汗をかいた馬も行く。人の群も……。ひどくゴミ／＼した雜然たる情景だ。これが音に聞えた萬國橋である。

新時間の四時と云へば、日はまだ高い。既に眞夏の太陽になつた日盛りの街路は濛々と黄塵を吹き上げてゐた萬國橋の上まで來ると、白河が眼の下に見える。どろ／＼の水だ。白河とはちと恐縮である。河の兩岸が船着場になつてゐて、狭い河幅の中に汽船やジャンクや舢舨がうよ／＼してゐる。兩岸の狭い空地には荒荷や材木が高々と積み上げられてゐる。アンペラを被せた野積みの山もある。半裸の苦力の日灼けた顔にはほこりと汗で隈が出来てゐる。總てが狭苦しくて、ほこりつぽくてごちゃ／＼した感じだ。北京からやつて來た僕の眼には一層切



萬國橋

實にそれが感ぜられた。この第一印象は、併し天津といふものをはつきり見やうとする僕の神経を益々驅り立てた。

萬國橋を渡り切つた所が佛租界、左に折れれば英租界、右へ向へば日本租界——。

青島を振り出しに濟南、北京、天津と旅行を續けて來た我々は、各地で様々な人と話し、色々なものを見たのであるが、何處へ行つても租界の話の出ない所は先づなかつたと云つていい。さうだ、見様によつては目下北支に於て考へられるあらゆる問題が程度の深淺はあるとしても、これと關聯を有たぬものは殆んどないと云つても決して過言ではない。

勇猛果敢な我が皇軍の異常な努力で、主要な鐵道沿線の治安は大體形がついたが、奥地へ行けば、まだ仲々さう行かぬ所もあるらしい。何分にも曠漠たる大陸のことだから、山東山岳地帯には例の沈鴻烈、于學忠麾下の敗殘兵、山西には絶えずその背後を狙ふ朱徳の共産第八路軍の遊撃隊と云ふやうに、まだそこ／＼の匪賊共が所在に蠢動して、尠からず北支工作の障礙となりつゝある。而してその唯一の策源地となるものはとりもなほさず天津租界なのだ。凡ゆる手段を用ひて上海、香港、重慶方面と連絡をとり、

巧妙極まる方法で奥地の匪賊地帯に指令を傳達し武器彈藥の供給をやる。現に糞尿船の底に多數の兵器を忍ばせて運搬してゐた事件さへあると聞いた。

昨年三月、聯銀券が發行されるに當つて、法幣の流通期間を南方券は向ふ三ヶ月、北方券は一ヶ年と規定されたことは既述の通り。だから理論上法幣の姿は北支の天地からもう雲散霧消してゐなければならぬ譯合ひだが、それがなか／＼さうは行かない。治安の行き届かぬ奥地は已むを得ずとするも、北支第一の開港場たる天津では此處は治外法權だとばかり、いまだに大手を振つて大道を闊歩してゐるといふのだから癪だ。而も南方よりする敵意に満ちたオチヨツカイが邪魔になつて、經濟開發の大切な礎石とも云ふべき通貨工作に意外の浪風が立つ。馬鹿々々しいではないか。恰も風前の灯に等しい法幣に對し、聯銀券が打歩を持つて行かなければならんなんてだから北支の物價がどん／＼昂騰する。大衆の生活を壓迫するといふ結果になる。聯銀券が貿易通貨としての地位を早急に獲得するために、いくら爲替の集中に努力して見ても、これでは思つた効果は容易に擧がるものではない。

既に英佛租界の周圍は鐵條網で包圍してあつた。そして二、三の大會社を除く外は殆んど邦人は日本租界或は支那町へ移轉して終つてゐた。何ヶ所かに制限された出入口には着剣姿の兵隊さんが立つてゐた。然し現實に行つて見ると、僕等が途々噂に聞いて來たほど嚴重な檢問などはない。租界の中をかなり自由に視察出来る。試に店

屋にも飛び込んで見た。商船や大連汽船の船も租界の碼頭で荷役してゐた。青い並樹の續いたヴィクトリヤ街などにヨーロッパ人が至極平氣な顔をして歩いてゐるのも見受けられた。僕は一寸意外な氣持がした。

英國租界が出来たのは一八六〇年と云ふから、もう四分の三世紀以上になる。其の間彼等が築いた經濟力はさうチヨロコイものではない。水、電氣は先づいゝとして、電車は白耳義系だし、最も重要な港灣施設に至つては大部分外國租界のものだ。碼頭は勿論、倉庫や船など彼等の勢力には抜き難きものがある。それ故かうしたものに幾分でも依存する限り、鐵條網は著しき威力を發揮しないのだ。現地を見てさうした事情がハッキリ判る。遠く離れた内地から、どし／＼型をつけて終へばよいではないかと誰でもさう思ひ勝ちなものだが、さう簡單に行くものではない。ローマは一日にして成らずといふ諺もあるではないか。

二十六日公式訪問——商工會議所、居留民團、本間部隊司令部、憲兵隊、海軍武官府、特務機關、總領事館、市公署、天津神社參拜。

午後——外國租界視察。

二十七日正午市長公館に於て天津市長溫世珍氏の招待を受く。奉天日滿實業協會に出席した各地多數の視察團一行と同席す。日商會頭伍堂卓雄氏も來席。

午後四時三〇分天津發奉天へ。此處にて團員吉河氏と別る。途中日没となり、窓外の風物を何等見る能はざり

しは残念であつた。廣々とした寢臺車の寢心地は寔によろしい。

二十八日午前七時五分奉天着。ヤマトホテル。

奉 天

早速榎並會頭、菊地副會頭にお目にかゝる。菊地副會頭は既に全快せられ、同日夕刻大連へ出發。幸ひに片山誠二君の案内によつて、舊王城、同善堂、北陵、國立博物館を見學し、鐵西工場地帯を視察す。同工場地帯は確かに一見の價値があると思つた。夜は榎並會頭の招待。

二十九日、早朝榎並會頭飛行機にて承德へ出發。午前八時三〇分の汽車にて撫順視察に向ふ。大山豎坑、古城子露天掘、公園等を參觀し、午後二時歸宿。午後十一時四〇分三隅氏、松生新京へ出發。

三十日、明くれば汽車は滿洲の曠野をひた走りに走つてゐる。所謂黒土地帯で、しつとり夜露に濕つた土は如何にも肥沃さうである。杉菜に似た草の葉先にきら／＼光る朝露の玉はすが／＼しい限りだ。目路を遮る何ももない。唯空！



奉 天 忠 靈 塔

新 京

午前七時二十七分新京着。観光バスを利用して市内を一巡する。新京の観光バスは名調子を以て謳はれる案内嬢で有名である。奉天のツーリストで勧められるまゝに、奉天から座席の豫約を申込んで置いたのだ。「皆様、



滿 洲 國 國 務 院

銀行等の建築も仲々面白い。様式に、色調に、ヴァライテイがあつて、夫々によく纏つてゐると思ふ。新都建

お待ち遠う様でございました。今日は中原チエ子が皆様のお供をさせて頂きます」と云つた調子だ。戦跡での、當時の戦闘状況の説明に到つては果然熱を帯び、精彩を放つ。敢て江湖に推奨する所以である。呵々。平野のまんなかに以つていつて計畫通りに新しい都市を建設するといふ點で、新京は是非一度見て置かねばならぬ所。大同廣場を中心に整然と道路が四方に放射してゐる。「長安の大道直きこと矩の如し」といふ文句があるが、新京は將にその通り。空に一本の架空線もない。規則正しく外燈が兩側に並ぶ。まだ樹木が育つてゐないのが物足りないが、動物園や植物園の敷地まできちんと既に豫定されてゐるのだから大したものだ。滿洲經營のお手本を此處に見るやうな心地がする。諸官衙、會社、

設の方法に就て、一言するならば、（これは奉天鐵西工場地帯の場合も亦さうであるが）土地は計畫に従つて一應市公署に買収され、それを再び分賣して都市計畫を整然と實現して行く。其際土地の買賣に依つて生じた差金を以て建設費に充當するといふ方法である。思惑は一切許さない。實際に建築し、利用する者のみに土地を賣るのださうである。だから徹底した事が出来るのである。

寛城子、南嶺の戦跡にはたんぽぽの毛花が綿のやうに飛んでゐた。午後一時四〇分、滿鐵御自慢の「アジア」で大連に向ふ。最後尾の展望車は冷房装置だ。上衣を脱いでまどろむしばしの夢もうつつすら寒い位。日暮ともなれば、赤味を帯びたセードに灯をともし。列車は曠野の間を引裂いて驀進する。

途中奉天にて大崎氏同車。同十時、大連着。大連商工會議所庶務課長南氏の出迎へを感謝す。ヤマトホテルへ。渴水で弱つてゐるとのボーイの話。

大 連

三十一日商工會議所訪問。長永理事と種々意見の交換をなす。東和汽船支店に菊地副會頭を尋ね、氏の厚配により同社時札氏の案内にて埠頭視察及市内見學に赴く。滿鐵埠頭事務所にて副所長平井氏に港灣状況につき意見を聞く。先頃喧しく云々された當港の滞貨問題も漸く緩和されたとのことであつた。事變後上昇を許されなくな

つた埠頭ビルの屋上に特に案内して貰つて説明を聞きながら港を見る。老虎灘は大連の裏側にある入江である。小高い茶店にビールの泡を含みながら、暫く振りで海濱の涼風を楽しむ。軽いノスタルジア。市中は此處もアカシヤの花盛りである。

六月一日、三隅、大崎兩氏族順戰蹟見學へ。

夜——潮月にて菊地副會頭の招宴。

六月二日、吉林丸に乗船。偶々秒速二十五米突の強風襲來。二時間出帆を延期す。幸ひにやがて風浪鎮り、無事出港。海上平穩——

六月五日午前七時三〇分神戸港歸着。

(松生實記)



大連港

挨拶にかへて

團長 三隅福次郎

百聞一見に加かず、今回の北支滿洲の視察によつて、忠勇無比の我皇軍將士の勞苦を偲び、其地方の産業状態は勿論、局部的ではあるが地理風俗等も知るを得て、啓發せらるゝところが甚だ多かつた。

膠濟線及び津浦線の沿道到る處に、帝國軍人が初夏の炎天下に嚴然として警備につく勇ましき姿を見ては、目の熱くなるを覺え自然に頭が下る、列車内にも憲兵數名と支那の警乗長と云ふのが乗り込んで居り、主として支那人の乗客に警戒の眼を注ぎ一分の隙もない、津浦線の列車中で三等客車より一人の支那人を拉し來り我一行の隣室で取調べが始まつた、其支那人は最初自分は八路軍の所屬ではないと洩らしたことにより疑惑がかけられ憲兵と警乗長より嚴しく責められて居たが、遂に洗面所へ監禁せられて北京に護送せられた。

濟南發北上の列車は浦口(南京)を出て徐州——濟南間が夜行になるが、其間は機關車の前に装甲車が走りそれには兵隊が數名機關銃を擬して居る、朝の濟南着時間が一時間乃至三時間位遅延するのは毎日のことで、その原因は夜行中時々匪賊が現はれ、其都度列車を止めて装甲車が單獨出動して彼等を追拂つては前進する爲めである、乗客は其都度青くなつて居る者もあらうが、寢臺にもぐり込んで居る者もある、兵隊さんの勞苦は實際並大

抵ではない。

當時の北支の治安状態は都市と鐵道沿線は殆んど安全であるが、沿線も場所によりて一、二里奥地へ這入ると危険であつた、本間部隊の副官のお話によりて瀋海、津浦、膠濟線に圍まれたる山東省の一角に例の干學忠、沈鴻烈の軍が合して、約十萬の敗殘兵が蠢動して居ると聽いては、なる程と思はざるを得なかつた、併し既に其殘敵に對し完全に包圍陣を形成し漸時壓縮しつつあり、餘り暑くなつては兵隊が可愛想だから極最近にいよいよ殲滅戰を開始する、たと遺憾なことは我方は限りある兵員の中から各方面の警備その他に相當數を裂かねばならず兵力の不足を感ずると聽かされ、一層痛切に軍の御勞苦を思ひ、一行は深く感謝の意を表した次第である。

六月五日歸神後日々の新聞を注意して居ると、早くも六月七日より魯南地區戰の開始が報道せられ、敵軍の莫大な遺棄死體、敗走の情況等戰況が發表せらるゝ毎に、曩に副官が地圖を展げて説明された時を想起し、車窓から望見したに過ぎない知識で戰區の地形を空想して見たり、特に關心を持ち同時に愉快に感ずる情も人一倍深きものがあつた。

各都市の市公署、北京では臨時政府實業部等を歴訪したが、我々の面接した中國要人が委く流暢な日本語で應接せられ、しかもその態度が恰も十年の知己の如く打解けた中にも慇懃さを失はず、すべてに行届いた舉措には

全く感銘の深きものがあつたと同時に、自分の如き不愛想なものは大いに學ばねばならぬとつくづく思はざるを得なかつた。

北京に於ける實業部、商工會議所、市商會共同主催の歡迎會では、隨實業部次長、越智副會頭、都市商會々長等多數出席せられ、都會長が主催者側を代表して歡迎の辭を述べられ自分が謝辭を呈した、都泉藤氏は前月華北訪日經濟視察團々長として來訪された時、神戸に於ける歡迎會に列席したる關係で面識あり、其他當時の團員名士數名も參加して居られたので殊に親しみを覺えた、姑娘數名が酒間を斡旋し、中にも一人非常な美聲で客の需むるまゝ幾度となく唄ふ姑娘がゐた、もとより我々には文句も意味も判らぬがその聲量、その音律は實に驚異に價ひするものあり、隣席の日本會議所議員某氏の話により彼女が北京一流の名歌手であり、常にステージに立てると聽いてなる程と肯けた。又萬壽山、頤和園景福閣に於ける市長余晉蘇氏の歡迎午餐會はさすがに北京料理の粹をあつめ、特に揚子江産の鱘と稱する珍魚を始め山海の珍味、しかも主人側は市長の他に侯衛生局長、吳秘書長、王頤和園事務所長、干外事室主任等と陪賓吉田特務機關長の小數にて、全く水入らずの氣安さであり、堅苦しき挨拶ぬきで歡談に時を移した。余市長は軍人出身ださうで小柄ではあるがガツチリした體軀の持主で、精神の氣が眉宇にあふれてゐる、主人側は何れも日語が達者であるが特に侯局長は容貌と謂ひ言語と謂ひどうしても日本人としか思へない、それだけ親しみを覺えた、宴後態々昆明湖に別仕立の舟を浮べ吏員を附けて萬壽山一圓

を案内され、心ゆくまで觀賞したのであつた。

其他青島では吉澤副會頭始め會議所議員諸氏、井町、高橋及び同關係諸氏、濟南では滿恒富、徐子和氏、天津市長溫世珍氏等に鄭重なる寵招を蒙りしことは、此旅行における一行の印象として永久に消へ難きものがある。

視察に關する詳細なる記述は松生氏に依頼し、こゝには現地皇軍將士の御勞苦に對し滿腔の感謝をさしげ、併せて上記の諸氏の御好意に深甚の謝意を表する。

北支産業經濟開發の一考察

吉 河 圓 之 助

は し が き

支那事變勃發以來茲に二ヶ年有、帝國不動の方針に則り皇軍の威武は全支を壓し赫々たる戦果は人心の安定を促進し、華人の日夜冀求する安居樂業の新天地は日を趁ふて展示され、所謂興亞を目指す長期建設の聖業は着々進展しつゝあるのであります。

事變を契機として支那に對する我國民の關心は一齊に集中せられ、就中日滿支の經濟提携を一貫とする經濟資源の開發工作は我等國民に課せられた重大使命たるは言を俟たざる處であります。私は事變以來昨年一月、四月十一月の三回何れも月餘に亘り、商用を兼ね戦禍の跡も生々しい青島に上陸、濟南、天津、北京等の視察を遂げ更に新興の氣分横溢せる奉天から大連に至り具さに現地に於ける政情、治安、經濟、産業等、各方面の視察調査をなし幾多の認識を新にし得たのであります。私はその都度現地踏査中に於ける見聞、所感と調査要項を貧弱ながら小冊子に蒐録し報告發表して居るのであります。

しかしてわが神戸商工會議所に於ても、東洋の新事態の認識を深めそれに對處すべく産業、經濟の動向とその

將來に對する基本調査の必要を認め、議員の有志を以て北、中、南支那及滿洲方面の經濟視察團を組織せられたのでありますが、私は北支産業經濟視察團の一行に加はり去る五月十五日神戸港を出帆、青島に上陸し先づ青島をトップに濟南、天津、北京等を視察巡歴したのであります。

私は從來前後三回に亘る北支の機會に於て廣汎なる範圍に亘り視察要項を發表して居ります關係上その重複を避け、且つは一行中の各議員諸氏よりもそれ／＼の發表あることと思ひますので、今回は青島、濟南、天津、北京等の樞要都邑を中心とする産業經濟の動向と開發の將來に就て抽象的ながら一考察と題して右の報告に代へる次第であります。

一、青 島

獨逸文化の後を享けて我國が多年に亘り市街の擴張、商工業の振興、貿易の伸長等に努力せし結果茲に全く邦人發展の基礎を確立し北支進出の根據地として自他共に許して居る、殊に今次支那事變を契機としてその發展振りは實に目覺しきものあり、今や北支開發の國策の展開と相俟つて青島は貿易港としてその重要性を益々認識されつゝあり。

然も青島港は港深は適度にして港灣の設備も整備し北支唯一の不凍港である。今後これに多少の施設の改善を加ふれば北支第一の貿易港として益々精彩を加へその發展たるや期して俟つべきものがあらう。

更に特筆すべきものは觀光地帯としての特異性である、同地は一年四季を通じて氣候風土は我内地と大差なく市街は殆んど自然の丘陵地帯を取入れ海濱の白砂と相俟つて風光明媚市街はその全體が婉然遊園地の如き觀があり、支那在住の外國人が夏季はこの地に暑を避くるもの甚だ多く所謂觀光地帯としての特徴を多分に有して居ることである。この特徴を充分に活かすことによつて青島の發展に有力な素因となることを閑却してはなるまい。

翻つて産業都市としての伸長性はどうかと検討するに、生産の原料資材は孰れも支那の奥地より仰がなければならぬが、輸送する陸路交通機關は僅かに青島を起點として濟南に通ずる膠濟鐵道の一鐵路のみが、主要交通運輸を擔當して居るに過ぎず、然も該鐵道は單線にして、その運輸能力は實に微々たるものにして、到底青島を産業都市として將亦物資の集散市場として開發興隆せしめるの原動力たらしめるには甚だ迂遠の感を深くせしめるものである。

故に支那奥地を連繫する該鐵道を擴充して、複線とし以て運輸能力を十二分に發揮せしめることが青島開發上課せられたる先決問題なりと思推するものである。

更に市街は殆んど丘陵地帯にして、水利に恵ぐまれない爲めに、工業生産上必要な水が不足の爲め充分に生産能力を發揮することは不可能で、こゝにも生産工業地としての缺陷がある。結局工業の設定地帯としては、郊外の四方滄江方面が適當たるは言を俟たざるもこれに隨伴して港灣埠頭施設の擴充を計り、所謂貿易港として充

實發展せしめると共に、一面觀光地帯としての特殊性を益々發揮せしめることによりて青島の生命線はよりよく培はれ發展を約束づけられるであらう。

二、濟 南

濟南は山東省の中心に位置し蔣政權下に於ける濟南城の所在地として、政治の中樞をなすと共に同省第一の商都として君臨してゐる、今次事變前に於ける日本人の在留人は僅かに二千餘人に過ぎなかつたが、現在は一萬五六千に達するの盛況である。

同地は膠濟鐵道の終點、津浦線の分岐點として、四通八達し大陸運輸の要衝をなし、然も大黃河及小清河の流域にあつて、水利に恵ぐまれ土地肥沃にして棉花、小麥、煙草、落花生等の農産物は極めて豊饒にして、畜産は所謂山東牛の主産地として重きをなし、一面礦産物等の天然資源潤澤にして北支に於ける寶庫の如き觀がある。然も人口稠密なる近郊奥地を抱擁して、物資の消費地としての重要性も亦看過すべからざるものがある。

以上概括するに同地の、地理的環境は極めてその利を占め即ち陸路交通は至便にして物資の集散市場として省内に一頭地を抜き、然も水質良好なる水利と潤澤なる燃料資源に恵ぐまれ、勞力又豊富にして低廉なるが爲め工業地としての要素を多分に具備してゐる。

尙目下特別大市政計畫を樹立し着々その進捗を計られつゝある模様にて、天津を凌駕するのも近き將來と豫想

されるのである。

從來此地の經濟は天津に依存する處大なりしも、由來天津は各國權益の錯雜せる關係上、今次事變を契機として北支開發の經濟勢力をこゝに移行集中せしめることが青島港を關門とする經濟的連鎖と相俟つて、縱橫無碍なる産業都市としての發展を所期し得られるものと思考され、濟南の前途は實に洋々たるものと謂ふべきであらう

三、天 津

天津は北支に於ける産業經濟の動脈として我國に於ける大阪を彷彿たらしむるものがある、然し肝心の塘沽が白河の流出する泥砂の爲めに淺められ、年々これが浚渫を反覆されるも辛ふじて二三千噸級の船舶の出入を可能ならしむる程度にして、白河に至つては僅々一千噸級の船舶が漸くにして運航可能なるのみにて、ライターが主要なる海上運輸機關とされてゐる實情であり、貿易港としての價値は極めて稀薄である。

然も同地は問題の英國租界をはじめ佛蘭西、伊太利等外國の租借地が割據してこれ等各國の權益が相當根強く扶植されてゐる爲め青島や濟南に比し、事情錯雜化し我國の自主的な一元的産業開發は複雑微妙性があり、故に我國としてはこの錯雜極まる天津の發展に努力を致すよりは、寧ろ塘沽の港灣施設の擴充に努力を傾倒し天津の經濟勢力をこゝに誘致移行せしめ、縱橫無碍なる開發の手を染めることが機宜を得たる策なりと思考するものである。

四、北 京

北京は流石に一千年来金、元、明、清の王朝が帝都とせしところで、東洋文化の發祥地北支第一の大都會である。

その後屢々兵亂によつて多少の荒廢は免れずと雖も名勝舊蹟に富み我國の京都を彷彿せしめるものがある。今もなほ政治、教育の中心地であると共に觀光地帯として異彩を放つて居るも經濟的には、所謂消費地にして貿易及企業の対象としては極めて消極的存在と謂ふべく、この處天津の商工業の殷賑に比すれば全く同日の論に非らざるを痛感する次第である。

然も同地は地理的に見るも、北方に偏在し近く蒙疆の境界線と接觸するが爲め將來政治の樞軸地帯としても偏避の憾は免れないと思惟される。

以 上

所 感

大崎利一郎

今回神戸商工會議所北支産業視察團の一員として北支に渡り、青島・濟南・天津・北京の重要都市を一巡して先づ第一に感じたのは各都市共すばらしい都會景氣の出でゐる事であつた。

暴虐なる支那軍の戦火を受けて破壊せられたる青島・濟南に於て、産業復興に努力する人達の希望に燃えたる姿、青島二萬人、濟南一萬二千人、天津三萬五千人、北京三萬人といふ同胞の驚くべき増加ぶり——目に見、耳に聞くもの、それ等は皆思ひなしか生れ出でんとする新支那の慌しい先觸れの様に思はれた。

以下主要都市に就て些か見聞のまゝを報告する次第である。

青 島

青島は先づ獨逸によりて經營せられ、次で我が國の手により獨逸時代に比し總じて二倍の發達を遂げ、其の後華府會議の結果之を支那側に還附し、同時に山東に於ける我が優先的既得權を抛棄するの已むなきに至つた因縁の地であるが、今回支那事變勃發するや、蔣政権下の時の市長沈鴻烈は、青島退却に當り大港口に多數の閉塞船を沈没せしめ以て皇軍の進攻を阻止せんとすると共に、郊外四方・滄口の邦人紡績工場を徹底的に破壊するの暴

舉に出で、其の被害約二億圓との事である。

昭和十三年一月十日皇軍により占領せられてからは、港口の開啓作業は着々と行はれ、現在船舶の出入には何等の支障もないとの事である。

青島港の持つ重要性——青島は港灣都市として其の將來が囑目されてゐることは周知の如くであるが、これは本港が港灣として地理的條件に恵まれたると共に、廣大なる背後地を有し、更に最近急速に此の背後資源を結ぶ交通施設、並に經濟機關の擴充が具體化しつつあるに因るのである。而して近時は濟南の發展に依つて、從來天津の商圏内にあつた地域をも漸次支配するに至り、又膠濟鐵道の延長は北支開發上必至と見られてゐるから、濟南——順徳間、濟南——彰徳間、濟南——道口鎮間の各線の開通による奥地資源の輸送量の増加は同港の重要性を一層増加せしむべく、かくして青島港の發展は實に期して待つべきものがある。

青島港の能力——現在の青島港は僅に六百萬噸の吞吐能力を有するも、構内並に背後地の狭小なる關係より、更に四百萬噸分の擴張は至難なるを以て、將來の對策としては四百萬噸の吞吐能力を有する岸壁を現在の防波堤内に築造し、同時に防波堤北方の干潟地を埋立てるときは、一千萬噸の吞吐能力は易々たるべきこととなる。而して前述の如く開發せられゆく奥地物資の輻輳を思ひ合はせるとき、北支全體の發展のためにも亦青島港自身の繁榮のためにも、港灣能力の擴大強化は極めて緊要なる事柄であるだらう。

青島の市街——青島市街は市中アカシヤ繁茂し、赤いスレート、白い壁の家々建並びて實に美觀を備へ、氣候は溫和、海岸地帯には貸別荘もあれば東洋一の海水浴場もあり、青島は遊覽地としても亦忘れ難き存在である。

濟南

濟南は青島より膠濟線で十三時間、天津へは津浦線で十時間、經濟政治の中心として長らく韓復榘が勢力を張つてゐた處である。

此の地は從來邦人の居住營業が一定地域に限られて居り、殊に排日抗日政策の根據地であつたため邦人の活動は勢ひ不利不便を免れなかつたが、事變後は我が軍當局の威信あまねき結果、邦人は郊外への發展が可能となると共に、排日抗日の聲に脅さるゝことなく自由に發展し得るやうになつてゐる。

濟南は膠濟・津浦の兩鐵道の要衝に在るのみでなく、小清河による水運の便あり、且つ青島を門戶港として有し、河北・山東の大平野と山西の鑛産地帯を背後に控へ、實に好適の位置を占めて居るのみならず、更に工業都市として水の豊富なる事、附近に石炭の無盡蔵なる事、山東苦力と稱せられる労働者の供給豊富なる事、工業原料たる各種の鑛産物の潤澤なる事、並に廣大なる需要地を控へて居ること等、工業都市としての發達には恵まれたる諸條件を備へて居り、當市の將來は益々有望である。目下都市計畫事業の目論見最中の由であるが、之が完成の暁は茲に大濟南市が出現することゝ期待される。

天 津

天津で特に感じたことは租界の問題と通貨の問題である。

現在天津には英・佛・日・伊の四國の專管租界があるが英國の勢力は最も強大にして、經濟都市と云はれる天津の活動の九〇パーセント近くは英租界が占めてゐるとの事である。私の見た英國租界は香上銀行・チャータード銀行其他有力なる銀行、商館、商店が軒を並べ、殊に夜の英佛租界の繁華街はネオンの光も強く一入の繁昌振りを見せて居り、如何にも外國權益此處に在りといった感が深い。

新支那の建設にとつて、かゝる租界は一大痛であり、一日も早く處断しなければならぬと其の時感じたのであるが、果せるかな權益を楯に頑迷不遜なるイギリス租界に對し脅威の鐵槌を下すべく去る六月十五日天津英租界佛租界の外周を繞る萬國橋・山口街・旭街・芙蓉街・泰安路・中街・イギリス龍馬道の七ヶ所の通路及萬國橋下流の白河は嚴重なる檢索並に船舶の停船命令がなされて茲に租界隔絶の斷行を見た。租界問題も近く明朗化の運びとなること信じ、又さうなることと祈るや切である。

次に中國聯合準備銀行は創立以來健全なる發展振りを持してゐるとの事である。

昭和十四年三月十日限りとして法幣の流通を禁止し、聯銀券の普遍化、爲替基金の設定、國際通貨への進展等大いに通貨政策に努力したけれども、支那民衆が馴れた法幣に愛着を持つのと、何分廣大無邊とも云ふべき支那

大陸の事として奥地及治安の悪い處までは通貨工作も行届かざること、一方抗日派は固より法幣を固持して聯銀の流通を妨害せんとし、又租界内第三國は舊法幣の流通を授護してゐること等の結果、法幣による商取引は實に盛んにして、北支の新經濟政策を阻害するところ甚大であつた。此の點からするも租界には當然一大鐵槌が下されねばならなかつたわけである。私の在津當時聯銀券の發行高は約二億元と聞いたが、其の後次第にその歩を固めて法幣に打克ち、法幣崩落による民衆の生活の不安を救済する唯一の通貨としての存在をいよ／＼確保しつつあることは、誠に喜ばしきことである。北支の通貨工作は兎角の批難もあるが先づ成功したものと云つてよいであらう。

天津に於て外國權益を言はゞまさ／＼と見ただけに、租界の問題と通貨の問題とには一入心を惹かれたわけである。

聞いた話・見た話

我等の船ばいかる丸の船客の中に多數の職業婦人がゐた。一寸見ると曲藝團の様なきつい色彩の女である。この人達は青島・濟南に渡航した様であるが、青島・濟南のみならず北京・天津等各都會のネオンの下、カフェー、バー其他御座敷で働く婦人は實に夥しき數に上ると思はれる。之に關聯して聞いた事であるが、濟南・天津の旅館の主人が澤山の資産を作り成功して居るのが多數あるとの事である。是等の人々は事變勃發直後未だ秩序が

治まらざる時早くも都會に入込み、支那人の廢居の跡を〇〇の了解を得て借入れ、安價に修理して多數の部屋を作つて旅館となし、或は土地の買入をなして地價の騰貴で儲ける等、今では相當の資産を作つて立派な旅館の主
人として納まつてゐるとの事である。

支那下層労働者の生活は實に簡素其の物であつて、一日三十錢で三、四人の家族が生活出来る。「ヤンチョー」の賃銀の安いには驚くのではないが、これはとりも直さず生活費の安きを物語つて居る。

彼等の家屋は長屋であつて六疊敷位が一軒、其の内に棚があり、棚の上に夫婦・子供が一世帯で住んでゐると云ふ状態で、炊事場・便所は勿論なく、アンペラ敷の土間と一坪位の庭があるだけで、全體として箱の家のやうに見える。食事は大抵外へ出て路傍で立食ひをする習慣らしい。而も彼等は偉大なる體格の持主で、從順でよく云ふ事を聞き、且つ安價な勞力の提供者である。

之等の民衆は其の數甚だ多數に上るのだから、世に言はれる如く支那の國情と云ふものは、内地の我々の机上の物指で測れないとつくづく感じた。

昭和十四年十月十日 印刷
昭和十四年十月十三日 發行

(非賣品)

神戸市神戸區海岸通一丁目一六
編輯兼 發行人 松 生 幸 雄

神戸市兵庫區三川口町二ノ六
印刷所 海 運 經 濟 社

發行所 神戸市神戸區海岸通一丁目一六
神 戶 商 工 會 議 所

終

